

「脱成長」の挑戦

～なぜ消費社会は北側諸国だけではなく、南側諸国でも持続不可能なのか？～



Serge LATOUCHE

パリ大学教授

長らく開発経済学においては、経済成長が至上目標とされてきた。「経済成長こそが、雇用を創出し、貧困を解決する」と信じられてきたからである。だが、グローバル化にともなう、ますます南北格差が拡大し、生態系の破壊が急速に進むなか、あらためて経済発展や開発の在り方が問われている。この有限なる地球上、無限の経済成長を続けることは可能か。もし不可能だとすれば、いかなるオルタナティブが求められるのか。本講演では、「脱成長（デクロワサンス）」を唱え、ヨーロッパのエコロジー運動をリードする経済哲学者のセルジュ・ラトゥーシュ氏を迎え、経済成長なき社会発展の可能性について考える。

【講師紹介】

1940年生まれ。パリ大学(Université Paris Sud)名誉教授。専攻は、南北問題およびに経済哲学。ポスト開発思想としての「脱成長(デクロワサンス)」の提唱者。邦訳書に『経済成長なき社会発展は可能か? ——〈脱成長〉と〈ポスト開発〉の経済学』(作品社、2010)などがある。

※講演はフランス語で行われます。(逐次通訳有)

同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科では、連続セミナー「グローバル・ジャスティス」を開催いたします。このセミナーは、現代世界が直面するさまざまな課題における「ジャスティス」の問題を、講師が自らの視点で語っていくものです。したがって、どのような視角で、何を問題としてジャスティスを論じるかは講師にゆだね、主催者は一切の方向性をあらかじめ規定いたしません。ジャスティス(正義)という言葉のもつ多義性や問題性もふくめて、多様な議論の場として提供していくものです。

日時：5月17日(金)
18:30-20:00

来聴歓迎
予約不要

共催：日仏会館フランス事務所
アンスティチュ・フランセ
在日フランス大使館
GRM(グローバル・リソース・マネジメント)
Lecture Series 2013

会場：志高館 SK112教室【教室変更になりました】